



月はなぜ地球の周りを回っているの

太陽ができ、地球ができた

今から50億年ぐらい前、宇宙空間をただよっていた、ガスでできた星雲が、おたがいに引きつけあい、縮みはじめました。そして、これが回転しはじめて、中心ができました。この中心の部分が、大昔の太陽になりました。

太陽のまわりには、大きな円ばんのような、ガスのかたまりができはじめ、このガスのかたまりは、温度が下がるにつれて、小さなちりのような物をつくりました。

そして、このちりのような物がたくさん集まって、びわく星とよばれる小さな星になりました。このびわく星どうしがぶつかりあったり、くっつきあったりしながら、地球や火星などの太陽系のわく星ができました。

地球の一部が月になったから

わく星は、太陽のまわりのガスから生まれ、現在も太陽の周りを回っていますが、月はどうして太陽の周りではなく、地球の周りを回っているのでしょうか。

大昔の地球には、たくさんのびわく星が、次々とぶつかってきました。そして、あるとき地球に、かなり大きなびわく星がぶつかり、地球の一部がけずり取られました。

けずり取られた部分が、地球から飛び出して、地球の周りを回る月になりました。月は地球の一部からできたので、太陽の周りを回らないで、地球の周りを回っているのです。

(監修・国司 真)

